



- 高等学校等における ICTの活用促進
- 学校種間連携の強化
- 英語担当教師及び小学校教師の指導力・英語力の向上

当該地域における英語教育の課題

生徒の英語力

中学生（CEFR A1レベル相当以上達成）及び高校生（CEFR A2レベル相当以上達成）共に、向上させる必要がある。
 中：52.1%（49.2%）、高：50.0%（48.7%）

① 授業における教員の英語使用や児童生徒の英語による言語活動の状況について

中高共に、教員の英語使用状況及び生徒の英語による言語活動の状況に課題がある。言語活動を通じた授業づくりのための指導力が不足。
 ・英語担当教員の授業における英語使用状況（発話の半分以上）中：88.9%（74.4%）、高：60.5%（46.1%）
 ・授業における、児童生徒の英語による言語活動時間の状況（授業の半分以上）中：87.2%（74.5%）、高：62.9%（52.9%）

② 学習到達目標の達成状況を測る学習評価について

中高共に、パフォーマンステストの実施や評価問題の妥当性・信頼性に課題がある。さらに、高等学校では、CEFR B1レベル相当以上の「見取り」の方法に改善が必要である。
 ・スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した割合 中：87.2%（90.1%）、高：59.5%（48.6%）

③ ICT機器の活用について

全校種で、ICT活用割合は高い水準にあるものの、活用内容の充実のために、教員のICT活用力・指導力の向上が必要である。

- ・児童生徒がパソコン等を用いて発表や話すことにおけるやり取りをする活動
 小：「実施していない」16.6%（14.7%）、中：「実施していない」16.5%（9.2%）、高：「25%未満」28.6%（49.6%）
- ・児童生徒が遠隔地の児童生徒等と英語で話をして交流する活動「半年に1回以上行った」
 小：6.1%（3.9%）、中：13.9%（3.3%）、高：21.4%（10.1%）

④ 校種間連携について

高と小・中との連携の割合が低く、一貫した外国語教育の重要性について理解を深めるとともに、校種間の情報交換の方策に改善が必要である。
 小中・連携：100%（75.5%）、中高連携：35.7%（19.5%） 【出典】 令和4年度英語教育実施状況調査より 本県（全国平均）

<実施内容>

◆ 「英語教育改善プラン推進事業」運営指導委員会の設置・運営【小中高】（課題①～④）

本事業を進めるにあたり、大学教員などの外部人材で構成する委員会から、本県の英語教育の現状や直面する課題について、多様な観点から情報を得るとともに、それらの解決のため、本事業を効果的に活用するために有益な意見を得ることができた。（各学期に1回、年間3回実施。）

◆ 「徳島県英語教育推進計画COMPASS」の周知徹底の継続【小中高特】（課題①～④）

本県の英語担当教育全員に本県英語教育の方向性や重点的な取組内容を共有した。研修や主任会等での説明とともに、学校訪問で教科会等を実施し、目標達成に向けて各学校が抱える課題を聞き取り、解決に向けて指導助言を行った。

◆ 小中高連携のための「指導と評価の一体化」サイトの充実【小中高】（課題①②④）

令和4年度に作成した「指導と評価の一体化」サイト上では、学習到達目標に対応した学習評価問題例を掲載している。本年度も、各校種の作成委員会で、大学教員の指導のもと、教員が目標・指導・評価の一体化について理解を深め、学習評価問題例を作成し、当サイトに掲載した。また、全校種の委員が共同で問題を検討する機会を持つことで、各校種の学習評価について相互理解を深めることができた。（年間4回作成委員会実施）

◆ ICT等を活用した発信能力強化のためのデジタルコンテンツの作成【小中高】（課題①～④）

学習指導要領のねらいを踏まえ、各校のCAN-DOリストに基づき、言語活動を通じた指導の充実及び学習到達目標の達成状況把握の一体化を促進するため、授業づくりや学習評価についての参考動画を作成し、「指導と評価の一体化」サイトに掲載した。

◆ グローバルに活躍する生徒（CEFR B1相当以上のレベルの力を持つ生徒）の育成【高】（課題①②）

研究校1校において、高い英語力を有する生徒を育成するための指導法及び評価法について実践研究を行った。さらに、4技能型アセスメント受検結果結果を活用し、CEFR B1の見取りの改善方法について考えた。県内教員の、生徒に高い英語力を育成するための指導力や評価力の向上を図り、授業や実践報告会を通じて、県内の高校及び中学校の教員と、研究成果を共有した。（年間6回研究協議会実施）

◆ 学習指導要領のねらいを実現する授業改善研究会【高】（課題①～④）

高校における、(1)ICTを授業や評価に効果的に取り入れた英語教育の実践（導入・標準）、(2)充実した言語活動による授業実践、(3)学習評価問題の作成と評価についての3テーマについて、現役高校教員を講師とし、全校1名以上悉皆のワークショップ形式の研究会を年間5回実施した。

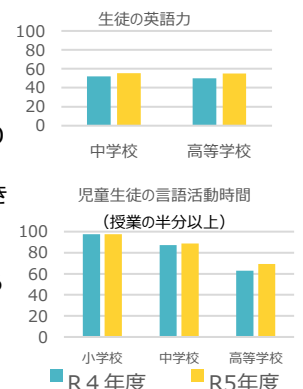
◆ 英語指導力向上事業【小中高】（課題①～③）

英語指導力向上を図るため、2回構成の研修を実施した。各校種で有識者から指導を受け、理論に基づいた実践を目指した。受講者は、第1回研修会の内容に基づき、勤務校で、言語活動を通じた指導と評価の一体化を実践し、第2回研修会で実践結果を共有するとともに、モデル授業者の授業動画を見て、講師から授業ポイントや評価について指導を受けた。

<成果指標に基づく成果及び検証>

◆ 課題①に対する成果検証

- ・本事業の活用により、学習指導要領及び「COMPASS」の理解が深まり、児童生徒の言語活動時間の増加、CAN-DOリストの達成状況の把握、生徒の英語力の教員の見取りの状況が改善し、生徒の英語力が向上した。
- ・高校の授業改善研究会で、各校の日々の授業の実態を踏まえた授業改善や評価改善に向けた、小グループでの協議やきめ細かな事例提供等を通して、各校教員が自らの教育実践を見直す機会となった。
- ・授業における英語担当教員の英語使用状況（授業の半分以上を英語）の割合は昨年度と比べて低下している。要因として、生徒の学力差や学習内容の高度化を踏まえながら、英語を用いて授業を行うための指導力・英語力の不足が考えられる。高等学校では、特に、「論理表現」における英語使用の割合が低いこと、教員の英語使用と生徒の英語使用状況との相関が認められた。





◆ 課題②に対する成果検証

- ・夏から秋にかけて実施した各種研修会の聞き取りでは、6割程度の中学校教員が、学習評価を作成する際に、「指導と評価の一体化」サイト上の学習評価問題例を参考にして、評価の改善を図ることができた。
- ・高校の研究協力校事業では、読んだ内容について、教員と生徒のインタラクションを通して理解を深めるなど、統合的な言語活動の実践方法等について研究を行った。研究授業や研究協議を通して、県内の中高英語科教員と成果を共有することで、各校の生徒の実態を踏まえた指導実践に資するものとなった。
- ・パフォーマンステストの実施割合が減少している要因として、特に発信技能における目標・指導・評価の一体化の理解及び実践が不十分であることが考えられる。生徒の言語活動の割合とパフォーマンステストの実施状況には相関関係が認められた。

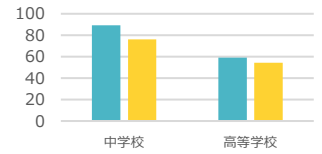
◆ 課題③に対する成果検証

- ・児童生徒がパソコン等を用いて発表や話すことにおけるやり取りをする活動では、小学校で実施が増え、改善が見られた。小：「実施していない」20% (3.4%pt.DOWN)、中：「実施していない」8.9% (7.6pt.UP)、高：「25%未満」53.6% (25pt.DOWN)
- ・児童生徒が遠隔地の児童等と英語で話をして交流する活動について、中学校、高校で増加が見られた。
- ・授業改善研究会では、日々の授業で活用できるアプリ等の教材を紹介することで、授業におけるICT機器の活用状況について改善が見られた。
- ・GIGAスクール教科等研究会などの機会を活用して、1人1台端末の活用事例を共有し、各校の実態に応じた端末の活用実践を充実させることができた。

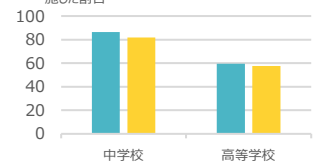
◆ 課題④に対する成果検証

- ・小中連携では、令和3年度から作成している「小中連携版CAN-DOリスト」の見直しを行い、全ての小中学校で活用できる環境を整備している。
- ・中高連携では、CAN-DOリストの公表及び達成状況の把握の状況が改善されており、他校種の教員が確認できる環境が整備されつつある。
- ・小中連携で「交流」を実施している割合は44.3%に留まっており、互いの指導法を学ぶなどの深い内容には至っていない。高等学校では、昨年度より中学校との連携の実施割合が減少しており、時間的な余裕がないこと、連携の具体的な方策が見いだせないことなどが要因として考えられる。

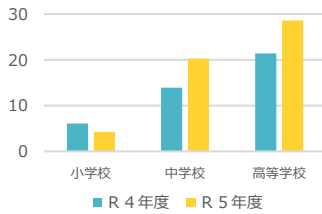
英語担当教員の英語使用状況



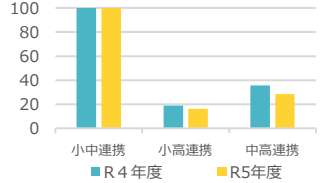
スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した割合



児童生徒が遠隔地の児童等と英語で話をして交流する活動



英語教育に関する連携の実施状況



<今後の方向性>

◆ 課題①に対して

- ・今後の取組として、中学校教員を対象とした授業づくりの研究会をブロック別、2年間の全校悉皆で実施する。また、高校教員対象に、令和5年度に作成した授業づくりの参考動画を活用し、全高校悉皆の授業づくり研究会を実施するとともに、高い英語力を育成する指導法についての研究成果の共有を通して、指導力向上を図る。さらに、言語活動の充実を図るため、英語教員がCEFR C1レベル相当以上の英語力を養うためのワークショップを実施する。

◆ 課題②に対して

- ・今後の取組として、中学校教員を対象とした研究会を実施し、テストの改善など、学習評価の充実を目指す。また、高等学校では、令和5年度に取り組んだ、学習評価の改善策の研究成果や、「指導と評価の一体化」を踏まえた学習評価のための参考動画を活用した、全高校悉皆の研究会を実施し、評価力の向上を図る。
- ・小学校では、目標・指導・評価の一体化の充実を図る観点から、CAN-DOリストの見直し時に、授業や定期テスト等を紐付けしたパフォーマンステスト等を回収し、指導助言を行う。

◆ 課題③に対して

- ・各校種の教員から英語教育リーダーを選出し、小中高連携を踏まえた授業改善や学習評価の改善について参集・オンラインによる共同研究を行う。成果物として、各校の実態を踏まえて活用できる、評価問題作成チェックリスト、校種連携のためのチェックリスト、授業づくりの参考資料等を作成する。
- ・小中高連携に取り組んでいる県外の先進校や自治体の視察を実施し、本県の抱える課題解決に向けた知見を得る。特に、教科書の内容をパフォーマンス課題の設定につなげる単元構想及び指導計画づくりについて学ぶことで、小中高を通した言語活動の高度化につなげるとともに、連携体制の構築について学びたいと考えている。

◆ 課題④に対して

- ・上記の各取組を促進するため、1人1台端末を最大限に活用するとともに、活用の好事例を収集し、広く県内での共有を図る。



成果普及

▶ 学習到達目標に対する学習評価問題例／授業づくり・学習評価の参考動画

／高い英語力の育成を目指す研究概要・成果検証

[https://www.pref.tokushima.lg.jp/compass-private-/](https://www.pref.tokushima.lg.jp/compass-private/)

(ログインID:COMPASS パスワード: English)

▶ モデル授業動画を用いた研修の様子・学習指導案

<https://www.tokushima-ec.ed.jp>



小学校



中学校



高等学校